

暮らしの中に息づくくぬぎ山地区を見つめる

国・県・市・市民が一体となった

緑再生への決意



子どもたちに残したい...くぬぎ山地区の美しい雑木林

「自然を、緑を守り、私たちの子どもたちに残してあげなければいけない」という、市民の皆さんの強い要望が市に届いています。市では、その声にこたえるために、確固たる姿勢と方向性を持つ、たゆまぬ努力で着実に環境施策を進めています。自然を守り、緑を再生することは、たとえ時間がかかったとしても、将来必ず実現できると考えています。そのためには、国・県・市・市民が一体となって取り組むことが必要です。かつて「産廃銀座」と不名誉な名称で呼ばれ、煙突が乱立し、ダイオキシン問題が渦巻いた「くぬぎ山地区」が、新しい森として生まれ変わるついでにいます。市民と市の共通の願いである「緑再生への決意」。その思いが、今しなやかな若い幹のように急成長しています。

武蔵野の景観が広がる

通称「くぬぎ山地区」



通称「くぬぎ山地区」は、狭山市、川崎市、所沢市、大井町、三芳町の5市町にまたがる三富地域にありますが、ここは、東京近郊にありながら、県内でも狭山丘陵や見沼んぼとならぶ大規模な緑地が残された貴重なエリアです。この雑木林には、絶滅危惧種に指定されている、オオタカをはじめとするたくさんの生きものが暮らしており、都市域での、希少な生きものの生息空間となっています。

もともとこの地域は、江戸時代に開拓された「三富新田」を中心とする農地と平地林の織りなす武蔵

くぬぎ山地区の今昔(いま・むかし)

昭和59年と平成14年の、くぬぎ山地区(狭山市域の3か所)の航空写真



野の景観が現在も広がる、歴史的にも特色のある土地で、くぬぎ山地区は昔から農家の身近な「里山」として活用されてきました。

そして、近年ではこの雑木林に、東武東上線・西武新宿線・池袋線などの鉄道路線に沿って市街地が形成され、東側には関越自動車道が南北に伸び、南側には国道463号が東西に走るなど、開発が進んできました。さらに、西側は都市計画道路・東京狭山線の建設が進んでおり、一部の区間がすでに開通しています。

ダイオキシンの報道で「産廃銀座」と呼ばれて

しかし、希少な生きものが暮らす広大な雑木林であるこの地域も、20年ほど前から、周辺の開発に伴って地価が上昇したために、相続が発生したときに相続税を払うなどの理由で切り売りされる土地が増え始めました。そして産業廃棄物関連施設

放置され草が生えた残土



設や資材・残土置場、倉庫、墓地などが次々とでき、緑の森が虫食い

状に伐採され、ごみの不法投棄も目立つなど、自然環境の荒廃が年を追うごとに進みました。

不法投棄も目立つ



今から18年前(昭和59年)のくぬぎ山地区の狭山市域の航空写真と平成14年のものとを比べると、虫食い状に伐採され、茶色い地肌や工場の建物、煙などがはつきり分かります。(上写真参照)さらに3年前にはダイオキシン問題が報道され、「産廃銀座」と不名誉な名で呼ばれるなど、世間を騒がせました。

市民と行政の努力で

また一つ煙突が減った

これらの産業廃棄物処理施設は、行政指導や市民の強い要望によって、年々減少してきました。(次頁に焼却施設数の推移を掲載)

さらに9月には、新たに狭山市域の1つの焼却炉を有する事業者が施設を移転することに同意し、国・県からの補助を受け、市と業者との契約に至りました。また、残る最後の1事業所も、12月に操業を停止することが決まっています。